

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館

合併号 No. 51
News & 52
2022.3

よこはま

緑むすび講中
スタートしました!

館長コラム vol.1



特集

令和3年度 大反省会 & 令和4年度 企画展予告



企画展

美術の眼、考古の眼



展覧会をみるって、どういうことでしょうか？と考えたとき、もつと自由にそして楽しく展示をみることでできていいのではないかと、といった気持ちがこの「美術の眼、考古の眼」を企画するきっかけだった。ふりかえると、当館に職場を移して約三年。その間、あれよあれよという間に時間が過ぎ、やることなすこと二言目には稼げ稼げと博物館の理念や指針はどこへやら。世の流れにおもねって博物館も変化を求められ、各自各館それぞれが暗中模索しながら、消費財とならないようにランニングし続ける昨今である。もちろんコロナ禍によって何をやるにもフットワークが悪くなり、常態化する予算事情の悪化は他人事ではない。そんななか、少しでも楽しい展示、できるだけ来館者のお客様にたいしては能動的に展示を楽しんで、そしてワクワクして、欲をいうなら好奇心と興味をも刺激できればと思い考古担当の橋口氏と企画したのが「美術の眼、考古の眼」展である。何よりも、やるなら自分たちが楽しまなく

Eye of art, Eye of archeology

ては、仕事のモチベーションも日々のテンションも上がらないというもの。
さて展示では、武蔵野美術大学教授であり日本画家の間島秀徳、日本画出身ではあるものの絵画以外に多様な造形作品を作る松山賢、そして横須賀市和泉田浦町のアーティスト村を中心に活動する陶芸家である薬王寺太一の三名の作品を横浜出土の縄文土器とともに「みる」ことをキーワードに展示をしている。博物館の展示で現代美術と縄文土器って思われる人もいるかもしれないが、異なる時代のものを展示してはいけないという理由はないのである。だって中世、近世の作品・資料が同時に展示されることはよくあること。その制作年は一〇〇年や二〇〇年の差があるのは当たり前。当たり前を疑うこと、作家作品の意味を考えるもよし、縄文土器を造形作品として彫刻的にみるもよし、すぐに答えを探すのではなくて、答えにたどり着くまでの過程を大事にし、それが「学び」につながるべと秘かに思うのである。（文 吉井大門）

間島秀徳 Kinesis No.734(cosmic island) 2019年



薬王寺太一 re_QUARK 2017年



果たして、展示タイトルにマッチしつつカラフルな色遣いが目にまぶしい楽しくなるようなデザインのポスター・チラシが完成した。

完成したポスター・チラシを見ながら、何がエモいのか、何がカワイイのか、さっぱりわかっていない中年の担当2人は精いっぱい楽しい展示を目指していこうと決意を新たにしていたのだ。2021年12月16日記す。（文 橋口豊）



松山賢 土器怪獣イノシシン・オオカミン 2020年

企画展の方向性や概要を知ってもらうにあたって広報は重要である。その中でも基本となる媒体、それはポスター・チラシだ。

当館で開催する企画展のポスター・チラシは、基本エモいもカワイイもない。調査・研究内容を端的に示すには実直と質実剛健がはじけてまざるデザインがどうしても多くなってしまうからだ。当たり前である。

美術担当の吉井学芸員と二人三脚（背負ってもらっている？）で進めている「美術の眼、考古の眼」展。他の企画展と同様ポスター・チラシを作成し、全国の博物館施設を中心に配布を行った。今回は縄文土器と現代作家の作品とのコラボレーション展であり、考古学的な調査・研究成果を披露することを重視する展示ではない。そのためポスター・チラシのデザインについては少し冒険をしても良いのではと考えた。

そこで、縄文時代への愛が深すぎるフリーペーパー『縄文ZINE』の編集をされている株式会社ニルソンデザイン事務所にデザインを依頼し、ご快諾いただいた。



令和四年（二〇二二）は、新橋と横浜の間を結ぶ鉄道が開業してから一五〇周年の節目の年にあたります。明治五年五月七日（一八七二年六月二日）品川〜横浜間で鉄道が仮開業し、同年九月二日（一八七二年一〇月一四日）には新橋〜横浜間の全線が開業し、現在も一〇月一四日は鉄道記念日となっています。また、令和四年度には、神奈川東部方面線の相鉄・東急直通線（新横浜線）の開業が予定され、横浜市営地下鉄が開業五〇周年を迎えるなど、横浜を中心に鉄道に大きな注目が集まる年となります。

この節目の年にふさわしい取組として、本企画展では、横浜における鉄道史の概略や、横浜市を走る鉄道各社の歩み、各社の現在・将来における事業展開などを、各社協力の物質資料・写真資料・映像資料などを使って、歴史を過去から今、今から未来へと「つなげる」展示を行います。また展示以外にも多くの関連事業を通じて横浜の鉄道史や魅力を紹介していきます。会期については横浜市歴史博物館史上初の半年に及ぶロングラン開催です。前期後期の二期制で行い、一部展示替えを挟みその魅力を

力を紹介していきます。

ご参加いただく鉄道会社は、通勤・通学など普段の生活で乗降している旅客鉄道をはじめ、日常、直接関わるものが少ないであろう貨物鉄道も含め、市内を走る鉄道各社のすべてである計一〇社です。博物館において横浜の鉄道会社が一堂に会する展覧会は、今後二〇〇周年を待たなければおそらく行われまいであろうと思われます。

また、鉄道各社には展示資料協力だけでなく、各社の展示ブースを担当学芸員とともに監修・製作していただき、歴史を過去から今、今から未来へと「みんなでつなげる」展示となります。鉄道会社のブースでは、各社の歴史を表現した展示や、トピックの一つの駅を取り上げ紹介した展示、SDGs（Sustainable Development Goals）（持続可能な開発目標の略称）を意識した展示など、各社各様のブースを楽しみながら学べる空間になっております。

鉄道愛好家だけでなく、子供から大人まで広く横浜市民に対して、ふるさと横浜の発展を屋台骨となつて支えてきた鉄道の奥深さや新たな発見をしていただける展覧会、横浜や鉄道に対するさらなる愛着を深めていただける展覧会となっております。

ご期待ください。（文 小林光一郎）

みんなてつなげる 150 YOKOHAMA 鉄道 年

鉄道開業150周年記念

— 鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり —

会 期

2022年 3月19日(土) ▶ 9月25日(日)
前期:3月19日 ▶ 6月19日 / 後期:6月22日 ▶ 9月25日
※6月21日(火)は展示替えのため休



神奈川臨海鉄道株式会社
オリジナルクリアファイル
(非売品)



D51型蒸気機関車 (@本牧市民公園内)

双頭レール
(断面)

追憶のサムライ

横浜・中世武士のイメージとリアル

会 期

2022年
10月8日(土)
▼
11月27日(日)



重忠一花と座すー 山田道則氏画

令和四年（二〇二二）、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放映が始まりましたね！今秋の展覧会は「サムライ」がテーマ。忠誠心が高く、剛勇で清廉潔白など、私たちの抱いている「サムライ」イメージは、歴史の中でどのように醸成され、語り継がれてきたのでしょうか。また実際の「サムライ」資料とは、どのようなものなのでしょうか。本展は二部構成とし、第一部で横浜地域に伝説を遺す鎌倉武士、畠山重忠と源範頼に焦点をあてた鎌倉武士のイメージに、第二部で横浜市立大学所蔵の古文書を題材に横浜に伝わる中世武士たちのリアルに、迫ります。

（文 阿諏訪青美）

展覧会 プレ企画

NHK大河ドラマ好き必見！
鎌倉幕府とその時代に関わる連続講座を4月より開催します！
第1回 4月23日（土）「鎌倉幕府の治安維持」（東京大学史料編纂所准教授・西田友広先生）
※お申込み方法等、詳細は博物館HPをご覧ください。お問い合わせください。



みどりアートパーク 2

【緑区】

土を掘り、土を漉して色を取り出し、焚き火などをして枝木から作った色を使い、子どもたちが力を合わせて、全9回、4か月間をかけて3本もの大きな絵を描きました。

当館で土器作り教室の材料に使用している都筑区の粘土も素材として使っていました。

完成した、見上げるような作品は当館のエントランスホールで展示しました。

<http://midori-artpark.jp/details/000394.php>



4 大倉精神文化研究所 小机城のある町を愛する会

3

【港北区】

●「港北ふるさと映像上映会」

漫画・アニメ・紙芝居「小机の重政」の上映会を港北区内3か所で開催しました。

●「小机城ガイドツアー」

先般、学術調査が実施され注目を集める小机城跡。今年度は5回にわたって小机城ガイドツアーを実施しました。1・2回目は小机城のことを深く学び、3～5回目は周辺の横浜市中世城郭まで範囲を広げ、横浜の中世を学ぶ場を作ることができました。

また、小机城を舞台にチャンバラ合戦も実施しました。



5 横浜市歴史博物館

【都筑区】

●「かやぶき屋根プロジェクト」

詳細は23ページをご参照ください。

令和4年(2022)2月6日に「第1回よこはま縁むすび講中シンポジウム」を無観客、後日配信で実施しました。活動の総括とともに、それぞれの2年目の事業について検討・共有しているところです。

「よこはま縁むすび講中」の活動、応援よろしくお願い申し上げます。



よこはま縁むすび講中は、「令和3年度地域と協働した博物館創造活動支援事業」として実施しています。



<http://yokohama-enmusubi.jp>



よこはま 縁むすび講中

スタートしました

「講中」と書いて「こうじゅう」と読みます。江戸時代以来、著名な神社やお寺に参詣したり、行事を共同で行ったりする地域社会のつながりや仲間のことをそのように呼んできました。横浜にも大山講や富士講をはじめ、たくさんの講中がありました。

そんな歴史ある名前を受け継いだ「よこはま縁むすび講中」は、横浜市内北部四区の文化施設（①横浜市民ギャラリーあざみ野（青葉区）・②みどりアートパーク（緑区）・③大倉精神文化研究所（港北区）・④小机城のある町を愛する会（港北区）および⑤横浜市歴史博物館（都筑区））の五団体が、文化庁の『地域と協働した博物館創造活動支援事業』の助成を受け、当館を中核として、地域における文化遺産の活用や推進、担い手の育成とそれらの活動の維持を目的として発足しました。

北部四区はかつての旧港北区として、複数の文化遺産を共有するエリアです。本講中の活動をおして「地域文化圏」としてのつながりを形づくっていくことを目指しています。

また「よこはま縁むすび講中」独自のWebサイトを設立しました。団体ごとの活動を相互共有する場として、活動や交流の内容を広く地域に発信しています。

一年目から各団体が地域と人とのつながりを意識した事業を行うことができました。各団体の活動をご紹介します。（文 よこはま縁むすび講中事務局）

1 横浜市民ギャラリーあざみ野

【青葉区】

●「自分の思いと写真」

～横浜市内立山内小学校5年生による写真と俳句展～

山内小学校5年生が写真撮影ワークショップを受講後、撮影した写真に自作の俳句を添えて展示しました。彼らの眼をとおりて切り取った「いま」が見える展示でした。



●あざみ野カレッジ よこはま縁むすび講中 特別講座

「青葉区の大山街道を知る」

市民ギャラリーあざみ野の生涯学習、あざみ野カレッジの特別講座として本講座を実施しました。

葛飾北斎の「鎌倉・江ノ嶋・大山新板往来雙六」画を出発点として、学び編と散策編の2講座を実施しました。学び編では「大山信仰と大山道」について学び、散策編「大山街道・荏田宿周辺を歩く」ではあざみ野周辺の大山街道（矢倉沢往還）を歩きました。講座実施にあたっては当館の蔵書・資料も微力ながらお役に立てたようです。

また横浜・あざみ野「アートフォーラム通り」の施設やお店を紹介する動画をYoutubeにて公開しました。

<https://artazamino.jp>





東海大学教職資格センターでは教職・司書・学芸員・社会教育主事などの国家資格の取得を目指す学生向けの講義や実習を開講しています。私が所属する学芸員課程は、昨年春からコロナ禍により講義が、そして夏と冬に実施している学内実習も遠隔となりました。資料の取り扱いに関する学内実習を遠隔で行うのは大変でした。学内実習では美術、民俗、写真、保存、展示の五分野の実習があり、私は、掛軸の取り扱いの動画等を制作してオンデマンド教材を配信しましたが、対面でなければ伝えられないこと、実際に資料を手にとって触ってみなければわからないことが沢山あるからです。今回の連携について吉井学芸員と話す機会を得たのは、私が遠隔での実習に限界を感じていたそんなときでした。

博物館との連携を試みた背景には、本学が二〇一三年から博物館との連携による実践教育プログラムに力を入れてきたという別の経緯もあります。これまでの実践は博物館の「公開・普及」に特化した内容でし



たので、今回は「収集・保管」「調査・研究」の領域で連携できないか、吉井学芸員に相談しました。そして、対象学生を「博物館実習」を学内の松前記念館で受講する四年生に絞り込み、松前記念館の実践実習の一環として連携することが実現しました。もちろん、「連携」はゴールではなく、それは実践的な教育活動

実現するための「手段」にすぎません。私たちは充実した内容を共に模索し、事前研修・実習連携の二段構えのプログラムを計画しました。事前研修では本学OBの井上副館長からも学生にお話を頂く機会を得ました。

学生は、実際に実物資料を手にとって触ることで、その先にリアルな博物館活動や学芸員の倫理観などについての理解を深め、博物館が個々の現場で抱えている課題や問題にも当事者として想いを馳せることができるようになります。今回の連携は、そのことを改めて認識する良い機会となりました。学芸員と学生、学芸員と教員の相互交流もまた今回の連携の紛れもない成果の一つでした。今後はさらにパワーアップした連携事業にチャレンジしたいです。

吉井学芸員をはじめ博物館の皆さまに心より感謝申し上げます。日頃からの信頼関係が成り立っているなければ、このような連携は実現できなかったと思います。ありがとうございました。

実物をみて、さわって、学ぶことの意義

東海大学教職資格センター 准教授 篠原聰

東海大学との博物館実習連携

横浜市歴史博物館 吉井大門

博物館は開館以来、横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していく施設として「市民協働のありかた」「地域との関係」「賑わいの創出」「市民サービス」「外部との連携」を指針に実は、活動を行っています。こうした指針のうち、「外部との連携」として、本年度から東海大学と「大学と博物館の協働による博物館資料の保存活用事業」を実施したので、その報告となります。小難しい前置きはさておいて、博物館と大学の連携って何って思つかもしれないけれど、簡単なこと。お互いがお互いの足りない部分を補って成長しあいましょうということなんです。

では何をしたかというと、資料の整理を、具体的には「掛軸」の整理を東海大学の学芸員資格を取得するための授業である博物館実習に組み込んで実施しました（註）。この連携でミソとなるのは、実物資料を扱ったということ。何を偉そうに思つかもしれないけれど、実績作りのために、その場しのぎで連携の看板を掲げて、一回限りで終わってしまう

だけでは、ただ消費されるだけで、自分たちもやっていて楽しくないだろうし、そして何より、実物資料に触れてもらえたほうが学生にとっても担当者としてもワクワクするし、モチベーションもあがるに決まっている。というわけで、そのために東海大学の担当篠原先生と割と細かに（ここが重要）事前の打ち合わせをし、博物館に資料が搬入され、整理・収蔵・展示・貸出といった流れを想定し当館のバックヤードを含む実地見学を行い、そうした過程のなかに、今回の実習の資料整理を位置づけるイメージで、学生たちに挑んでもらえるよう想定しプログラムを考えていきました。

とはいえ、事前準備を進めても、実習を想定すると、ある程度あつかいに熟練を要する掛軸を、不慣れな学生に取り扱わせることに対して、正直なところ作品が破損するイメージしか浮かびませんでした。だがしかし、ああよかったと、そんな不安は杞憂に終わり、オリジナルを扱うという緊張感は、学生たちの学びの

この連携事業、資料整理を継続し将来的には実習回数を増やして、展示レイアウトそして展覧会の開催といった、「展示を作る」プログラムを学生と進めていくことができればと模索しているが、引き続き継続していきたいと思っています。

（註）東海大学との実習は七月一〇日に博物館で現場実習、八月三日、一〇月一日、一九日の三回に分けて東海大学で資料整理の実習を実施した。



新商品のマスキングテープ
レイアウトにも可愛い工夫が



オンラインショップ
はこちら



勾玉、あじろ編みの
作り方動画はこちら



横浜市歴史博物館
Youtube
チャンネル

手書きのPOPにも味わいが



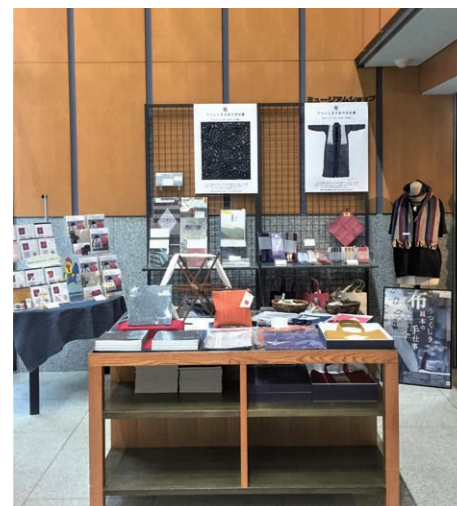
ミュージアムショップ MUSEUM SHOP

スタッフも楽しめるお店作り

博物館入口を入り、左手インフォメーション奥にあるミュージアムショップ。

企画展図録や歴史に関する書籍、ステーションナリー、オリジナルグッズや工作キットなどが揃っています。企画展や季節に合わせて商品の入れ替えもしています。

おすすめ商品は、オリジナル工作キット（れきし工房シリーズ）です。一種類から選ぶことができ、中でもイチオシは色々なアレンジが楽しめる「ペーパークラフト筒形土偶はらでぐち君」また、勾玉キット、あじろ編みキットは作り方解説動画もみることができ、作り方のコツがよくわかりますよ。続いてオリジナルグッズでは、新商品のマスキングテープやクリアファイル、手ぬぐいなどもおすすめです。マスキングテープは博物館所蔵の風俗画巻・古文書・myキャラーの三種あり、三種セットはお得に購入できます。



2021年7～9月まで布展開催時のショップの様子



定番商品も充実しています

ご来店される方々に楽しんでいただくために、スタッフが欲しい！と思う商品を選定、製作しています。そして商品ひとつひとつに愛着を持っています。学芸員はもちろん、事務スタッフ、受付スタッフなどの色々な意見を取り入れています。

決して広くない店内ですが、いつ来てもたいてい新鮮だと感じていただけるようにスタッフがこまめに楽しみながらレイアウトを変えています。是非、博物館へ越しの際にはミュージアムショップにお立ち寄りください。心よりお待ちしております！



はらでぐち君たち勢ぞろい



はらでぐち君 完成品



御城印
小机城



二〇二一年一月二三日に横浜市歴史博物館オンラインショップがオープンしました。以前は通信販売で郵便振替や現金書留で代金を送って購入する方法のみでしたが、クレジット決済や代金引換での購入が可能になり、とても便利になりました。博物館に行きたくてもなかなか行けないという方にも全商品ではありませんが、気になる商品の情報を検索したり購入していただくことができるので、今後でもできる限り多くの商品を掲載していきます。パソコンやスマホから博物館ホームページより、または直接「横浜市歴史博物館オンラインショップ」と検索してください。横浜市歴史博物館のマスコットキャラクター「レックル」のヘッダーが目印です。

人気商品は、企画展図録、御城印などですが、ミュージアムショップの店頭と同様、企画展ごとに新商品を掲載したり、トップページのおすすめ商品の入れ替えを定期的に行っています。この機会に是非オンラインショップを覗いてみてください！（文 野口文恵）

オンラインショップ

ONLINE SHOP

横浜の歴史文化の知から 持続可能な発展へ

—横浜市歴史博物館がめざすもの—

館長 佐藤 信



二〇二一年四月から、鈴木靖民前館長の後を継いで横浜市歴史博物館長となりました、佐藤信です。前館長と同じ日本古代史を専攻しており、奈良国立文化財研究所の研究員や文化庁の文化財調査官として文化財の調査・研究や保存・管理・活用行政を担当した後、東京大学で日本史学、各地の史跡等文化財の保存・活用・発信に関わってきました。

横浜と私の縁は、子供の頃の六浦での海水浴や、家族で楽しんだ中華街での食事の思い出にはじまります。古くからの大

横浜 DeNA ベイスターズまで半世紀近く熱く応援しています。学生時代に、港北ニュータウンの大塚・歳勝土遺跡の発掘調査に参加したことも、大きなつながりです。

横浜市歴史博物館との関係は、初代館長の故平野邦雄先生から、古代史と文化庁勤めの後輩という親しさからか、創設構想などを親しくご教示いただきました。高村直助館長からは大学の日本史学研究室の後輩として、鈴木靖民館長からも学生時代以来の古代史の後輩として、色々と導いていただきました。また横浜市ふるさと歴史財団では、親しい先輩である五味文彦理事長のもと、評議員・理事として近年務めてまいりました。

横浜市は、世界に開かれた大都市として、日本を代表する歴史を歩んできたといえます。その歩みは、決して開港以降の近現代史だけではなく、古代から近現代に至る各時代の歴

史の証人としての史跡、歴史資料や建造物にもたくさん恵まれています。原始古代では、教科書に載る弥生時代環壕集落の大塚・歳勝土遺跡、古墳時代の稲荷前古墳群や市が尾横穴古墳群があり、ヤマト王権の直轄ミヤケが置かれて開発が進んだ地域です。律令国家になると、地方官衙（郡役所）である武蔵国都築郡家などの遺跡があり、東海道と東山道を結ぶ役割を果たしました。中世には、著名な北条



大塚遺跡

氏一族の称名寺・金沢文庫や、そこに伝わる数多くの古文書・古典籍など優れた史料群、そして鎌倉の境界である朝夷奈切通、鎌倉の国際的外港である六浦港や上行寺やぐら群などがあります。

近世の神奈川・保土ヶ谷・戸塚宿、東海道の交通や吉田新田にみる新田開発の姿などは、開港にはじまる大きな歴史の変動を経て、近代日本を代表する都市横浜となりました。世界への玄関として、近代の産業を牽引しました。居留地、新橋横浜間鉄道の遺構や、旧横浜正金銀行本店などの近代建築群や中華街などは、横浜の都市発展を見守ってきました。さまざまな「日本初」の近代的施設の遺構も各所に見られます。一九二三年の関東大震災、一九四五年の横浜大空襲により大きな被災がありましたが、その都度人々の努力で復興をとげ、大都市として発展する横浜は、今も世界に向けて

日本を発信し続けています。横浜は、世界や諸地域から新しい文化を常に積極的に受容してきた多文化共生の伝統を活かし、これからも地域の歴史・文化をふまえながら、さらに持続可能な発展をめざしていくことでしょう。その進むべき方向をさぐる際には、地域の歴史・文化や伝統が示す「人文知」を共有することがとても重要になると考えます。

横浜市歴史博物館は、そうした横浜が誇る歴史・文化や伝統を地域の人々がしつかり理解し学ぶ場を提供するとともに、調査・研究成果の分かりやすい展示・発信をめざすことになると思います。その際、これまで以上に地域の皆様方や関連諸機関との連携・協力が大事になると思われます。

今後とも、皆様から大きなご支援・ご協力をたまわりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木前館長横浜文化賞受賞！

鈴木靖民前館長が横浜市の最高顕彰である第70回（令和3年度）横浜文化賞（文化・芸術部門）を受賞しました。



2021年11月22日（月）に行われた、第70回横浜文化賞贈呈式・記念コンサートにて

令和3年度大反省会①

特別展

横浜の仏像

「しられざるみほとけたち」

をふりかえる

二〇二一年一月二三日～三月二一日まで開催された特別展「横浜の仏像―しられざるみほとけたち」(註)、当館では美術史分野による展示は、おそらくは開館以来のものでした。なぜそうなのかといった、そのあたりの細かな事情はさておきとして、この「横浜の仏像」展、まず何がすごかったかって、横浜市として長年継続してきた文化財総合調査の集大成的な位置づけであったこと、加えて横浜地域の仏像を体系的に展観した初めてのものであったという点でも非常に意義かつ意義深いものでした。地域の仏像がすべてではないけれど、それらが一堂に会する様は、美しくもあり、荘厳であり手前味噌ながらいい展示だったと。そして何より、そのなかで向導寺(泉区岡津町)の阿弥陀如来坐像を展示にあわせて再調査し、展示できたことは、会期をとおしてうれしい出来事の一つでした。

この阿弥陀像、どういった仏様かというところ、泉区岡津町・向導寺の旧本尊。平成元年(一九九五)

ぱり実物の作品を前にして生の声が聞こえてきて、そして何より喜んで博物館を後にしていったもらえるのを見ると、感謝の気持ちでいっぱいであるとともに学芸員冥利に尽きるなと思うのでした。

そんな中開催された「横浜の仏像」展ではあったけれど、仏像に対して、展示準備中から微力ながら何かできないかと頭をよぎるものの、準備に忙殺される日々が続き、どこかに何か引っかけたまま、展示初日を迎えることになりました。それでも、文化に係る身としては、何か力になれないかと思いつつも、こんなことではいけない、と無い知恵を絞っても、募金くらいしか思いつかず、でもやらないよりも何かアクションを起こした方がいいし、このままだと何もしゃべり下がつてフェードアウトするのは面白くない。というわけで、特別展期間中に修復費に係る、募金を行ったのです。当初は、こんなやらせみたいなこと大丈夫かといった雰囲気もあったけれど(個人的所感)、おどろくなかれ、予想以上の来館のお客様のお気持ちの多さに、戸惑うばかりでした。さらに、募金を行うにあたり事務処理を適切に進め、かつ温かく見守ってくれた(と思っている)職員には頭の下がる思いです。

結果として、会期五三日間で約五〇万円におよぶお気持ちをいただき、日本もまだまだ捨てたものではないと、ひそかに感動したのでした。ほどこなく無事に「横浜の仏像」展示終了後、各お寺様からお出ましたいただいた横浜の仏像たちにお戻



「横浜の仏像展」準備当時は、コロナ禍による緊急事態宣言真つただ中、展示をやるかやらないかわからないけど準備するという生殺しのような開催までの日々を過ごしながら無事会期初日を迎えられたことは幸運であつたし、関係者の協力と館のブレない方針(?)に感謝するのです。それでも当時、世の風潮を鑑みると、お客様には来ては欲しいが、来ないでくれといった葛藤がなかったかといえぱうそになるし、だけれども、そんな状況のなか来館いただいたお客様から、やつ



りいただき、事務処理に追われる日々も落ち着いた二〇二二年五月某日、件の募金を携え、向導寺様へと伺ったのでした。これからまだまだ時間がかかることが予想されるが、微力ながら修復の力となるよう活動していきたいと思っています。(文 吉井大門)

(註) 本特別展は長年、横浜の文化財調査に携わる、横浜市文化財調査委員の山本勉氏(当時清泉女子大学名誉教授、現鎌倉国宝館館長)の監修のもと開催し、横浜市教育委員会とともに当館主催で二〇二一年一月二一日～三月二一日まで開催されたものです。

二〇二一年度最初の企画展である「縄文ムラ」の原風景―目指せ世界遺産！岩手県御所野遺跡―展（以下、御所野展）は、新型コロナウイルス第四波の影響で、ワークショップなどの催しを一部中止・内容の変更をせざるを得ないなど、予定どおりに行かないことも多くありました。しかし連携先の岩手県御所野縄文博物館とは電話・メール・リモート会議などを駆使することで、展示の準備から撤収にかけてスムーズに実施することができました。

御所野遺跡は世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつです。御所野展開催時は世界文化遺産登録にいたる最後の審査を目前に控えていた時期でした。

御所野展の大きな目的は、世界文化遺産登録を目指す東北地方の縄文時代遺跡が一体どのような特徴・凄みを持っているのか、広く関東の皆さんにも知ってもらおうというものです。

さらに御所野縄文博物館の担当者とは相談の上、企画展示室のほか、二階廊下に横浜市内出土の縄文土器の展示、エントランスに「北海道・北東北の縄文遺跡群」とその構成資産（七遺跡）の解説を行うパネル展示を行いました。更に、焼失実験も再現したお菓子の竪穴住居づくり・土偶マイム・縄文マイムといった学びとエンタメを融合させた取り組みも。

以上の企画は、世界文化遺産登録を目指していることをより多くの人に知ってもらうこと、縄文時代

の資料が横浜市内からもみつかったことを知ること、世界文化遺産や縄文時代を身近に感じ、応援してくれる人がひとりでも増えればとの思いで実施しました。

二〇二（令和三年）七月二七日に御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は無事世界文化遺産に登録となりました。当館の取り組みが少しでもお役に立てたのであれば幸いです。（文 橋口豊）

●世界遺産北海道・北東北の縄文遺跡群
<https://jomon-japan.jp/>

●御所野縄文公園
<https://goshono-iseki.com/index.html>



縄文ムラの原風景

展と世界文化遺産登録応援展示について



2021年の夏、横浜市歴史博物館では、神奈川大学日本常民文化研究所と共同で、東北地方を中心とする布をテーマにした企画展「布 うつくしき日本の手仕事」を開催しました。展示では、青森県のこぎんや菱刺といった手仕事を始め、大麻や楯などさまざまな素材の布を紹介したほか、布にまつわる講演会やワークショップなど多彩な催しを行いました。その中で福島県会津地方に注目した二つの関連企画のコーディネイトを菊池由紀子さんにお願いしました。今回その内容を菊池さんにご執筆いただきました。（担当学芸員 刈田均）

ワークショップ「会津木綿のハギレでコラージュ！」 トークセッション「地域創生 西会津と鳥取と」

菊池由紀子（ワークショップ企画・講師）

会津木綿の発祥はさつぱかまと呼ばれる農作業着で、集落ごとに固有の縞で作られたもんぺのようなもの。今も農閑期にさつぱかまの縞を縫い、翌春の為に新調するのだと聞きました。機能的で美しく、縞はその土地の四季折々の風景を映し出してきたのではと想像します。現在会津地方にはこの伝統を継承する織元が三社あり、その中で三〇年前に廃業した坂下町で青木木綿を営んでいた工場から織機と縞を継承し、現代の暮らしに合う会津木綿の商品開発をしている（株）IIEさんのご協力を得て、会津木綿のハギレを提供していただきワークショップにつながりました。縫製の過程で生まれるハギレは、他二社の老舗山田木綿織元さん、（株）はらっぱ・原山織物工場さんのものも含まれ、参加者の皆さんには、三社特有の会津木綿を思い思いに組み合わせ、楽しんでみる機会でした。まず会津地方の風物詩、三社についてスライド



ショーで紹介してから制作に入りました。

トークセッションでは、「伝統を継承する喫緊の問題と同時に失われつつある集落の暮らし」をテーマに、西会津国際芸術村ディレクター兼一般社団法人BOOT代表の矢部佳宏氏を招き、長年鳥取市佐治町（旧佐治村）のフィールドワー

クに関わる学芸員の小林光一郎氏（民俗）、羽毛田智幸氏（民俗）とのトークセッションを収録配信しました。西会津町と佐治町は日本海に近い豪雪地帯でもある山間部、阿賀川と佐治川の流域にある地形的な類似、人口減少などをもとに放談となりました。矢部氏「地元ではまさに匍匐前進のようにして様々な取り組みに挑戦している。文化と産業を分けるという意識や、分析をしている時間はなく文化と呼ばれ消えていくものを当時の生業、新たな産業にしていこう努力をしなければならぬ（意訳）」小林氏「昔は中心部に行かなくても生活圏内の要所で交易があり、集落の暮らしは豊かだった。物だけでなく、人の行き交うことで文化や知恵が生まれた。」印象に残る言葉です。

感染予防対策でリモート収録となり、残念ながら対面での関連なやりとりや、参加者の皆さんからの思いをお聞きすることができなくなり、とても残念でした。それでも、前・後編に分けて配信したアーカイブの再生回数は五〇〇回を超え、地域を問わず多くの方にご覧いただけたことで、役割を果たすことができたと感じています。



「武田信玄および武将像」(米倉家所蔵)

〈武田信玄および武将像の名前・年齢一覧〉※漢字の表記は原則として原資料に従います。

●中央				●右			
武田信玄公				鎌田五郎左衛門 安馬三左衛門 横田備中守			
50				67 70 67 8 8 8			
●左				●右2列目			
上から1列目				原美濃守入道 小幡山城守入道 多田淡路守 日向大和守 栗原左衛門 諸角豊後守 原加賀守 小山田備中守 小山田左兵衛 飯富兵部少輔 板垣駿河守 甘利備前守			
50 程 47 8 37 8 40 程 40 程 17 8 27 8 20 8				60 余 60 余 60 余 60 余 60 余 60 余 67 8 67 8 57 8 57 8 67 8 67 8			
●左2列目				●右3列目			
馬場美濃守 内藤修理亮 高坂弾正忠 山縣三郎兵衛 甘利左衛門 原隼人佐 土屋右衛門 小山田弥三郎				岡部次郎右衛門 土屋備前守 安西與左衛門 春野市右衛門 岩手 岩手右衛門佐 今井新左衛門 今井刑部左衛門			
50 程 50 程 47 8 47 8 30 余 17 8 30 余				50 余 50 余 17 8 50 余 40 余 50 20 17 8 50 余			
●左3列目				●右4列目			
秋山伯耆守 浅利式部 小山田備中守 今福浄閑齊 駒井右京 栗原左兵衛 小宮山丹後守 跡部大炊介 小山田兵衛尉				米倉丹後守 春原若狭守 関基五兵衛 大熊備前守 江馬常陸守 相木市兵衛 芦田下総守 朝比奈駿河守 真田兵部介 真田源太左衛門 小幡上総守 真田弾正入道 前原筑前守 山本勘介入道			
50 50 40 余 40 余 30 余 30 余 40 50 40 50 30 余				50 40 余 30 余 30 余 60 30 50 余 50 余 37 30 37 8 40 余 50 50 50 50			
●左4列目				●右5列目			
横田十郎兵衛 小幡山城守 小幡五兵衛 城伊庵齊 初鹿源五郎 長坂長閑齊 曾祢七郎右衛門 市川梅印齊 今井九兵衛 原與左衛門 遠山右馬允 多田治部右衛門 下曾祢 江馬右馬尉 三枝新三郎				50 40 余 30 余 30 余 60 30 50 余 50 余 30 余 60 30 40 余 40 余 40 余 30 余 30 余 30 余			

初公開! 米倉家伝来 武田信玄および武将像

二〇二一年秋、横浜に陣屋を構えた唯一の大名、米倉氏（武州金沢藩、六浦藩）の幕末維新期の実態を探る企画展「横浜の大名 米倉家の幕末・明治「日記」が伝える武州金沢藩、激動の四年」を実施しました。展示では、藩士や領地の村々のもとに残された記録のほか、藩主米倉家に伝来した資料を、同家のご協力のもと初公開いたしました。その中でも注目を集めたのが「武田信玄および武将像」として紹介したこの絵図です。米倉家は戦国時代には武田氏に仕えていたため、同家に伝来したと思われる。

絵図の法量は、縦四七cm×横一三八cm。卷子に仕立てられ、「信玄公巻物」の外題が付されています。武田信玄の家臣団を描いた図は、いわゆる「武田二十四将図」が知られていますが、本資料では、中央に座す信玄のもとに、なんと八八人もの武将たちが控えています。人名とともに年齢らしき数字が記されているものの、信玄との年齢差にずれもあり、同時代に一堂に会した図というわけではないようです。

お問い合わせが多かったこともあり、今回、全武将の人名と年齢を紹介します。武将のラインナップは江戸時代初期に成立した「甲陽軍鑑」などに基づくと考えられますが、その選定基準や配置、年齢と思しき数字の意味、制作者や制作目的、確実な典拠、米倉家に伝来した背景などは不明です。謎の多い資料ですが、今後の研究が期待されます。（文 小林紀子）

一味違う？夜の歴史博物館

いつもは17:00で閉館する当館ですが、夜から始まるイベントがあるのをご存じですか？
子ども向け？大人向け？怖くない？いつもと違う夜の博物館へごあんない♪

夜の展示見学

閉館後の照明が落とされた常設展示室・企画展示室内を巡ります。閉館中とは違った展示物の魅力が明らかに？



夜のコンサート

企画展「美術の眼、考古の眼」関連イベントとして、縄文土器と現代アート、ミュージックが一夜限りのコラボレート！
講堂だけでなく、常設展示室と企画展示室もコンサート会場となりました。



当館ではこれからも閉館時間中ではできないことを、夜の博物館で企画してまいります。お楽しみに！

mini Exhibition
ミニ展示

〈会期〉2021年3月16日～開催中

横浜彫刻家具 ～ Yokohama Furniture ～



横浜彫刻家具は、寺社の建築物に施される龍や松竹梅、鳳凰などの東洋的意匠を、椅子やテーブル、^{たんす}箆笥などにあしらった和洋折衷の家具です。横浜ファニチャーと呼ばれ、1890年代の後半から1930年代まで、主に横浜で輸出用として製作されました。製作された期間が短く、また輸出用であったため、国内に残された横浜彫刻家具は多くはありません。また国内に残されたものも、個人蔵であるものが多いこともあり、目にすることは極めて稀です。展示では、横浜の山手に住んだ日本人一家が使用した揃いの横浜彫刻家具をご紹介します、併せて横浜彫刻家具の歴史をたどりました。

展示した4点の横浜彫刻家具は、1984（昭和59）年に、坂田種苗株式会社（現在の株式会社サカタのタネ）、相談役坂田武雄氏のご遺族坂田正之氏より横浜市に寄贈されたものです。大正末から昭和初頭に作製されたと推定されるこれらの家具は、豊穡を意味する葡萄が深彫りで施された揃いのもので、かつて横浜の産業の一つであった横浜彫刻家具の雰囲気を今に伝えています。
（文 石崎康子）

mini Exhibition
ミニ展示

〈会期〉2021年9月25日～12月9日

吉田新田の歴史

横浜の海沿いには江戸時代にいくつかの新田が開発されました。中でも現在の中村川と大岡川にはさまれた付近に作られた新田が吉田新田です。かつては入り海でしたが、360年ほど前、江戸の商人であった吉田勘兵衛により遠浅で波静かなその入り海の干拓工事が始まりました。11年という年月をかけて新田開発が行われ、吉田新田が誕生しました。その後、村高千石をこえる吉田新田村となり、明治期まで続きました。

幕末に横浜村に港が開かれました。その港が大きく発展できたのは、港の後背地である吉田新田があったからかもしれません。

小学校4年生の社会科では、大きな教科書会社でも令和2年度まで吉田新田について取り上げていました。そういったこともありますが、以前から横浜市内外の多くの学校が「吉田新田の開発」を通して先人の働きについて学習に取り組んでいるところです。

当博物館では、近世のブースに横浜の新田開発を紹介するコーナーが設けられています。11月頃はちょうどその学習の時期になりますので、お子さんたちがより分かりやすく興味をもって観ることができるようにこの展示を行いました。（文 浅見壽則）



神だのみの ありがたみ

文 羽毛田智幸（民俗担当学芸員）



コロナ禍になってアマビエという妖怪に注目が集まりました。

アマビエは一八四六年（弘化三年）に肥後国（現在の熊本県）の海上に現れた疫病封じの妖怪とされています。また、約一〇〇年前に流行したスペイン風邪（インフルエンザ）もメディアで取り上げられる機会も多くなりました。博物館業界でもかつて流行った感染症について展覧会で取り上げる機会が増えていきます。未知の病いが流行った時に、人々は

どんなことを考え行動してきたか、ということを紹介し、コロナ禍への対処を考えるきっかけとすることがこれらの目的でしょう。



令和三年度新たに有形民俗文化財に指定されたオシャモジサマの奉納杓子も、古くから人々に信じられてきた病氣除けのひとつであり、人々の行動の証しです。



続き、時には命を落としてしまうこともあるという百日咳。そんな病いからの回復を願って、オシャモジサマから杓子を一本借りてきて、患部にあてたりご飯をよそって食べさせることで咳が治ると信じられ、病いが治ったら借りた杓子に新しいものを加えて二本にして返すという。一〇〇本、一〇〇〇本と奉納され、時代を超えて杓子を積みあげてきたのは私達のご先祖さまで。

ひどい咳が

神さま仏さまへの祈願は最後の手段。たくさん積み重ねた受験勉強の最後に、「合格祈願」の絵馬を神社仏閣に奉納した経験は、多くの方が持っていると思います。今でも、恋愛をはじめ、パワースポットという言葉にも現れるように、何かを後押しをしてくれるチカラを求めて、人々は利益のある場所に足を向け祈願をするのです。

「百日咳消除」「くちめきかぜごむよう」、そう記された杓子からは、咳に苦しむ子どもを想う親の姿が、慣れない筆文字で「御礼」と書かれたたくさんの杓子からは、病いからの回復を喜ぶ親子の姿が目に見え、



「オシャモジサマは昔の人の風習でしょ」

コロナ禍以前は、病気に神だのみなんて迷信や呪い、そんな向きもあったように思います。しかし、ワクチンもクスリもない未知のコロナウイルスに世界が襲われて以来、

人々の気持ちや想い、そして行動が昔も今も変わっていないことを痛感するとともに、江戸や明治の人々が急に身近に思えてきました。



※横浜市内には一五か所を超えるオシャモジサマが確認されていますが、多くの箇所では奉納杓子が失われています。令和三年度に横浜市指定有形民俗文化財となったのは、鉄町と小机町の二か所の奉納杓子です。これらは、それぞれ二四五本、二二二本と多くの杓子が残されており、記された文字からその信仰内容をよく理解することが出来ます。かつて横浜に広く見られたオシャモジサマを伝える代表として今回指定されました。

オンラインショップでも販売中

詳しくは…
●展覧会図録『すくすく育てみんなの願い』
815円（税込）

お子さんと一緒に…
●絵本『よこはまのおしゃもじさま』
866円（税込）



2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響で博物館の外に出ることはできなかったけれど、10月24日の「れきし工房土偶づくり」ではわたくしがモデルになりました！
11月14日にこんがり焼かれて、完成。作ってくれた皆さんのもとへ旅立っていきました。
2022年はまた他館の展示などへ行けるようになると良いなあ。



原出口遺跡出土筒形土偶



大塚・歳勝土遺跡公園だより

「よこはま縁むすび講中」と「かやぶき屋根プロジェクト」

今年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は「よこはま縁むすび講中」の一環として進めてきました。

「よこはま縁むすび講中」って何？と思う皆さんは、6・7ページをご覧ください！

「かやぶき屋根プロジェクト」も国史跡という地域文化遺産と関わる活動ですので、「よこはま縁むすび講中」をとおしてより多くの人へアプローチしていきたいと考えています。

さて、今年度の「かやぶき屋根プロジェクト」は、月1回の活動を継続し自分たちでできる修繕、差し茅を実施しました。差し茅とは経年で劣化した部分に新しく茅束を差し込んでいく方法です。12月には朝霧高原茅場へ茅刈りに行くことができました。

また、「よこはま縁むすび講中」のHPに「かやぶき屋根プロジェクト」に関する記事を書いているのでそちらも是非ご覧ください。
(文 橋口豊)



よこはま縁むすび講中は、「令和3年度地域と協働した博物館創造活動支援事業」として実施しています。



茅刈りの様子



茅束づくり



差し茅の様子



差し茅の結果

INFORMATION

展覧会

- 特別展「みんなでつなげる鉄道150年 ―鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり―」
2022年3月19日(土)～9月25日(日)
会期中展示替えがあります。前期：3月19日(土)～6月19日(日)、後期：6月22日(水)～9月25日(日)
- 企画展「追憶のサムライ 横浜・中世武士のイメージとリアル―」
2022年10月8日(土)～11月27日(日)

イベント

- ラストサタデープログラム：月の最終土曜日に開催するイベントです
バックヤードツアー〔事前申し込み制〕
普段は見られない博物館の裏側を見学します。ホンモノの資料に出会えるかも？！
※こちらは事前申し込み制です。申し込み方法等詳細はホームページでお知らせします。
おもしろいぞ！紙芝居
平成27年(2015)に横浜市から有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居の複製を中心に実演します。
- 濱ともデー
毎月最終水曜日、濱ともカードをお持ちの方は無料でご観覧いただけます。

展示関連イベントや
ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
twitterにて随時
お知らせしていきます！



おもしろいぞ！紙芝居(イメージ)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00～17:00 (入館・券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

- 特別展・企画展の観覧料は別に定めます。
- 毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。
- 横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。
- 「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。
- 補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



●日時指定オンラインチケットのご案内

ご来館の際に、お待ちいただくことなく安心してご観覧いただけるよう、オンラインチケットの事前購入をおすすめしています。(招待券・割引チケットをご利用される方は、日時指定予約が可能です。) 購入はこちらから▶



横浜市歴史博物館

〒224-0003
横浜市都筑区中川中央1-18-1
Tel.045-912-7777 (代表) Fax.045-912-7781
<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
twitter @yokorekihaku

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報はお出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

横浜市歴史博物館ニュースNo.51・52 2022年3月31日発行
編集・発行 横浜市歴史博物館
デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)